

西神納地域住民アンケート調査の集計結果 分析がまとまりました（回収率 73.4%）

平成 29 年 7 月から 8 月に
かけて実施した住民アンケ
ート調査の集計結果と分析
がまとまり、平成 29 年 11 月
17 日（金）、神林農村環境改善
センターで報告会を開催し
ました。

報告会では、まちづくり協
議会の代議員や運営委員を
対象に、都岐沙羅パートナー
ズセンター事務局長の斎藤
主税さんからアンケートの
分析結果を報告いただきま
した。

アンケート結果の概要と
ポイントは下記のとおりで
す。




西神納地域

まちづくり新聞

第 14 号

発行
西神納地域
まちづくり
協議会

アンケート結果から見えるポイント

アンケート結果	ポイント
<p>回答者の属性</p> <p>回答者（951 人）の約半数が 60 代以上。 また、農業従事者（兼業も含む）が 143 人。その内 77.7%が 60 代以上。</p>	<p>このままだと、20 年後は 50 人程度になるかも!? 将来的に農地の維持管理が心配される。</p> 
<p>日常的な交通手段</p> <p>80 代になると車を運転する人の割合が減少。特に、 女性の割合が大幅に減少。 （70 代 80 代：男性 20%、女性 50%）</p>	<p>日常生活での移動に困る人が確実に増加！ 移動の支援を考えていく必要があるのでは？</p>
<p>インターネットの利用割合</p> <p>全体の半数以上(55.4%)がインターネットを利用。 （40 代以下は約 9 割、50 代でも約 8 割が利用） （大半がスマートフォンや携帯電話を利用）</p>	<p>50 代以下はインターネットでの情報伝達が効果的!? （回覧板は若い世代の人が見ないうちに回ってしま っていることがある？）</p>

アンケート結果から見えるポイント

アンケート結果	ポイント										
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> ↓ ↓ </div>											
<p>地域活動への関心</p>											
<p>「関心はあるが参加していない」(27.1%)が最も多く、10～30・50代女性の割合が特に高い。また、60代以下の約9割が理由に「余裕がない」と回答。</p> <p>「関心はないが付き合いで参加」(23.6%)と回答した人の理由の第2位が「頼まれた」(28.6%)。</p> <p>「関心はないし参加もしていない」と回答した人は、10代男性(27.1%)と20代男性(28.6%)が他の世代に比べてかなり多い。</p>	<p>必ずしも「地域活動に参加していない=関心がない」という訳ではない。多様な関わり方を設けることで参加の可能性は十分にある。</p> <p>一人ひとりに「お願いする」ことで参加につながる可能性がある。</p> <p>この地域の次世代を担う若者と直接対話を通じて参加しない理由をさらに深掘りしていくことが必要！</p>										
<p>女性・若者の声を反映する必要性</p>											
<p>地域全体では半数以上が「必要」と考えており、30～60代の中堅世代の割合が特に多い。</p>	<p>声を反映させる場(会議や話し合いの場など)や機会の充実が必要では？</p>										
<p>定住受入の必要性、他地域との交流の必要性</p>											
<p>定住者の受け入れ、他地域との交流の必要性については約7割が「必要」もしくは「分からない」と回答。</p>	<p>必要性は感じているが、まだ今ひとつ実感がない。今後を考えて話し合いを徐々に進める段階。</p>										
<p>この地域・集落に住み続けたいと思いますか？</p>											
<p>「住み続けたい」と答えた人は全体で約6割。しかし、30代以下が「住み続けたい」と回答した割合は低い。</p>	<p>30代以下は「わからない」の回答も多い。若い世代が住み続けたいと思える地域にする取組みが必要。</p>										
<p>自分の子供にもこの地域・集落に住んでほしいと思いますか？</p>											
<p>「住み続けてほしい」と答えた人が44.9%。特に50代以上が高い割合となった。また、40代以下では、「分からない」が多い結果となった。</p>	<p>子育て中の親世代が「住み続けてほしい」と回答した割合が低く、このままだと人口減少(流出)はさらに進行する可能性がある。</p>										
<p>この地域・集落に愛着がありますか？</p>											
<p>地域全体では「愛着がある」と答えた人は57.1%。40代以下が低く、50代以上が高い結果となった。また、10代では地区平均より少ない割合だった。</p>	<p>10代の愛着がないという結果は、もしかしたらその親世代(30～40代)の影響が関係しているのかも。愛着を育む取組みが必要。</p>										
<p>地域・集落内で誇りに思っているものは何ですか？(複数回答)</p>											
<p>誇りに思う地域資源のトップ5は</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">地域内の景観・自然環境</td> <td style="text-align: right;">38.9%</td> </tr> <tr> <td>地域内に暮らす人々</td> <td style="text-align: right;">26.4%</td> </tr> <tr> <td>地域内の助け合いなどの社会関係</td> <td style="text-align: right;">20.1%</td> </tr> <tr> <td>地域内の諸行事(祭り、イベント等)</td> <td style="text-align: right;">17.7%</td> </tr> <tr> <td>地域内の特産物(農産物、加工品等)</td> <td style="text-align: right;">16.5%</td> </tr> </table>	地域内の景観・自然環境	38.9%	地域内に暮らす人々	26.4%	地域内の助け合いなどの社会関係	20.1%	地域内の諸行事(祭り、イベント等)	17.7%	地域内の特産物(農産物、加工品等)	16.5%	<p>トップ5の項目については、全ての世代で上位にランクインしており、各世代で同じような結果となった。その一方で若い世代では「無い」と回答した割合が多く、世代間の意識の違いにも目を向ける必要があるのかもしれない。</p>
地域内の景観・自然環境	38.9%										
地域内に暮らす人々	26.4%										
地域内の助け合いなどの社会関係	20.1%										
地域内の諸行事(祭り、イベント等)	17.7%										
地域内の特産物(農産物、加工品等)	16.5%										



住民同士のつながりを深め、支え合いながら安心して暮らし続けられる地域を目指して

アンケート結果から見えるポイント

アンケート結果

ポイント

近所づきあいでの悩みは？（複数回答）

全体の約6割が「悩みなし」と回答。
ただし、20～60代は「忙しすぎる」という悩みが高く、また70～80代は「仲間がほしい」という悩みが高かった。

人が減っているのに、役割・仕事量が変わらなければ負担感が増すのは当然。今後、地域の中の役割・仕事量を検討していく必要がある。

日常生活で不安に感じていること・困っていること（複数回答）

不安・困りごとのトップ5は、

健康面への不安がある	19.1%	60・70・80代でトップ（50代は第2位） 自分の健康について不安視している人が多い
玄関先の雪のけなどの冬季の除雪	16.2%	ほぼすべての世代で上位にランクイン 地域共通の課題として認識されている
災害への備えや避難	15.4%	ほぼすべての世代で上位にランクイン 地域共通の課題として認識されている
仕事・雇用	13.6%	30・40・50代でトップ（20代は第2位） 働き世代でランクイン
病院が少ないなど、医療体制が不便	13.2%	30～50代、80代でランクイン

要注意（全体の順位は高くないが、特定の世代で順位が高いもの）

日常の買い物に不便	12.4%	10～40代で上位にランクイン（10代は第2位）
仲間と気軽に集まる場所がない	9.5%	10～30代で上位にランクイン（20代は第1位）
買い物・通院などの移動手段	5.2%	80代で第4位

取り組みの満足度と重要度の評価

今後、重点的に取り組むべきテーマのトップ5は、

状況把握、持ち主との交渉など、空き家の管理活動	50代以上は圧倒的にこれが大切だという評価 今後も空き家は増える可能性が大
避難訓練・連絡体制など、防災活動	30～60代は、この必要性を強く感じている これまでの取り組みをさらに充実させる必要がある
見回りなど、防犯・交通安全活動	特に30～40代が、最も必要性を感じている 子育てをしている親世代が必要としている
婚活イベント・紹介など、結婚対策	50代以上が、この必要性を強く感じている 若い世代よりも、親・祖父母世代が心配している
買い物・通院など、移動支援活動	30～60代が、この必要性を強く感じている この世代が自身の親や祖父母の送迎を行っており、将来的に必要なと感じているのかもしれない

年代別に重要だと思っている項目

30～60代	・日常的な不安や悩み、子育てなどの相談できる場や人	・防火・救命など、消防活動
50代以上	・農地・山林などの維持管理	
10～60代	・見守りなどの生活支援活動	・防犯、交通安全活動
		・特産品開発、地域産物の販売活動

自由記入のご意見・ご提案など(抜粋)

- ・地区内にある各団体が少なくなっていくのが残念に思います。継続していく方法はないですが、会名が変わってもいいので地域内で話し合う場を作ってほしいです。
- ・集落の近くには道の駅穂波の里があり、そこで野菜市に参加しています。野菜などを出していますが、とても評判が良く、自分の作ったものが売れるので生きがいを感じています。穂波の里をより多くの人に利用してもらうために、これからも便利で楽しい場所にしたいと思います。
- ・地域内の人たちが仲良く助け合い暮らしていけるのかが何よりだと思えます。
- ・少子高齢化の現代、車の運転の問題、買い物、通院等(のりあいタクシーはあるが)10、20年後、自分自身どうしたらいいだろうかと考えている。例えば、食品等は宅配サービスを受ける手段があるが、どうしても自分で見て購入する品物もある。コミュニティバスの運行が必要になるのでは？
- ・学校への登校時に地域の方が横断歩道に立ってくれたりして「いってらっしゃい」などと声をかけてくれるので気持ちよく登校できています。このまま続けてほしいです。
- ・学校内、家庭内でも自分の子供だけが良ければいいと思っている大人(親)が多くなってきたと感じる。自分の子供はもちろん周りの子も含めて良いこと、悪いことなどを教えることが大切。広い心、温かい心を育てることだと思う。
- ・仕事、家庭に日々追われ、地域で何が行われているのか全く把握できていません。家族構成が変化する中で地域、とくに近隣との助け合いは重要になると思う。自然に恵まれ、のどかで住みやすい地域であっても働ける環境(魅力)がなければ子供が住み続けたいと感じるかは疑問。地域で同世代や世代を越えて繋がり活気あふれる活動があったら良いと思う。
- ・高齢者から子供まで楽しめる環境づくりができれば、いい集落が構築されると思う。まずは話し合う場を作ることから始まる。
- ・人口減、空き家、高齢者のみ世帯の増加の対策についてまちづくりでも考えてほしい。村上市は人の流れが少なく寂しく感じる。婚活イベントを活発に実施し少子化に歯止めをかけてほしい。
- ・集落内を見ると若い人たちが地域外で生活しているため、これから先、集落の行事、農業などが継続していけるのか心配。
- ・この先学校の統合があり、他の地域と仲良くする機会(大人も含む)があったら良いと思う。
- ・地域の活動の中でお祭りや草取りなど、住民が少しでも交流できる活動があつていいと思う。また、大切にしていきたいと思う。
- ・若者がこの地域で暮らしたいと思えるような魅力あるまちづくりにしてほしいです。田舎でも暮らしやすいと感じるには、普段の生活の中で気軽に都会に行くことができるようになればいいと思う。そのためには、交通の便の充実が必要。

ご意見・ご感想・問い合わせ

【事務局】

村上市 神林支所
地域振興課 自治振興室
担当：八藤後 卓也
電話・告知端末
66-6122
自治振興室メール
k.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp

協議会では、来年度から始まる第3期まちづくり計画(3カ年)策定に向け、地域で話し合いを進めています。今回のアンケート調査の結果や地域の皆さまからいただきましたご意見などをふまえ、これからの地域づくりにつなげていきたいと思えます。

アンケート結果の詳細は、村上市公式ホームページ内の西神納地域まちづくり協議会のページでご覧いただくことができます。